

溶岩流のシミュレーション(溶岩流ドリルマップ重ね合わせ図)

※計算開始地点から各規模噴火の溶岩流が発生した場合の計算結果であり、これら以外の場所で噴火が発生した場合は、異なる結果となります。

溶岩流ドリルマップの説明

溶岩流のシミュレーションを時間ごとに表示したものが溶岩流のドリルマップです。大中小の規模ごとに溶岩流の到達する可能性のある範囲としてドリルマップを重ね合わせたものを掲載しました。可能性マップとくらべて、個々の噴火口からの実際の流れ方がよくわかります。

溶岩が流れ出る可能性のある火口の設定

富士山の火口は、山頂を中心に幅広い範囲に分布し、宝永噴火のように山頂以外から噴火する可能性があります。そのため、過去の噴火火口を基準に火口が生じる可能性が高い範囲を、大規模噴火、中規模噴火、小規模噴火ごとに計算開始地点を設定しました。

ドリルマップの見方(事例：[L31]計算開始地点 大規模溶岩流のドリルマップ)

3時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が2時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が3時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が6時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が12時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が24時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が7日(1週間)で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が最終的に到達する可能性のある範囲

ドリルマップの使い方

お住まいの近くに影響をおよぼす噴火口は複数あるかもしれません。早めの避難が必要になる場合に備えて、お住まいに関係する火口の範囲を把握しておきましょう。また、溶岩流の流れ方をもとに避難方向や避難先もイメージしましょう。

(注) 各計算開始地点の溶岩流ドリルマップを重ね合わせた図で、一度の噴火でここに塗られた範囲の全てに溶岩流の危険が生じるわけではありません。
 (注) シミュレーション前提と異なる火山現象が生じる可能性があることにも注意が必要です。

小規模溶岩流

(噴出量 2,000万m³)

到達時間
 溶岩流が2時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が3時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が6時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が12時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が24時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が7日(1週間)で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が最終的に到達する可能性のある範囲

中規模溶岩流

(噴出量 2億m³)

到達時間
 溶岩流が2時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が3時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が6時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が12時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が24時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が7日(1週間)で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が最終的に到達する可能性のある範囲

大規模溶岩流

(噴出量 13億m³)

到達時間
 溶岩流が2時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が3時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が6時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が12時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が24時間で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が7日(1週間)で到達する可能性のある範囲
 溶岩流が最終的に到達する可能性のある範囲

富士山火山活動情報「噴火警報」「噴火警戒レベル」

- この情報は、噴火災害軽減のため気象庁から発表され、NHKなどの報道機関や各市町村から発信されます。(裾野市では同報無線、広報車、まもメールなどによりお知らせします。)
- この情報は、危険な範囲や防災対応に応じて5つのレベルに区分し、取るべき行動をお知らせします。
- 富士山が噴火しそうな時は、情報に注意し、万一に備えて避難の準備をする等、適切に行動しましょう。
- その他、火山活動の月間情報(月間火山概況)や火山活動の変化などの状況を伝える情報(火山の状況に関する解説情報)を発表します。

種別	名称	噴火警戒レベル(キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報(居住地域または噴火警戒レベル5避難)	5	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ●大規模噴火が発生し、噴石、火砕流、溶岩流が居住地域に到達(危険範囲は状況に応じて設定)。12月16日～1月1日：大規模噴火、大量の火山灰等が広範囲に堆積 ●噴火の事例 直轄噴火(864～865年)：北西山麓から噴火、溶岩流が約8kmまで到達 ●噴火の事例 延暦噴火(800～802年)：北東山麓から噴火、溶岩流が約13kmまで到達 ●噴火の事例 宝永(1797年)噴火の事例 12月15日昼～16日午前(噴火開始前日～直前)：地震多発、東京など広域で揺れ
		4	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ●小規模噴火の発生、地震多発、顕著な地殻変動等により、居住地域に影響するような噴火の発生が予想される(火口出現が想定される範囲は危険)。 ●噴火の事例 12月14日まで(噴火開始数日前)：山麓で有感となる地震が増加
警報	噴火警報(火山周辺)	3	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	<ul style="list-style-type: none"> ●居住地域に影響しない程度の噴火の発生、または地震、微動の増加等、火山活動の高まり。 ●噴火の事例 12月3日以降(噴火開始数日前)：山中のみで有感となる地震が多発、噴火がほぼ毎日あった
		2	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。	<ul style="list-style-type: none"> ●影響が火口周辺に限定されるごく小規模な噴火の発生等。 ●過去の事例 該当する記録なし
予報	噴火予報	1	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴火が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	特になし。	<ul style="list-style-type: none"> ●火山活動は静穏(深部低周波地震の多発等も含む)。

避難について(新たな避難スキーム)

【避難の基本的な考え方】 「いのちを守る」避難を優先し、「くらしを守る」避難についても最大限配慮する。

区分	状態	行動内容	対象者	
避難の分類	予備的避難	直ちに危険ではないが予後を見越しての避難	市内指定避難所への避難(立ち退き避難) 市外への避難	一般住民(避難行動要支援者)
	通常の避難	噴火発生後の危険が及ぶ場合の避難	指定避難所への避難(避難所への避難) 指定緊急避難場所への避難(臨時措置) 市内指定避難所への避難(必要時滞在) 広域避難(市内避難所が確保できない場合)	観光客等 一般住民・観光客等 ※避難行動要支援者は予備的避難 一般住民・観光客等、避難行動要支援者 一般住民・観光客等、避難行動要支援者
火山現象の避難方針	火山現象	発生後の避難は困難なため、噴火前に影響範囲から避難する。	避難方針	噴火前
	大きな噴石、火砕流・火砕ラージ	発生後の避難は困難なため、噴火前に影響範囲から避難する。	避難方針	噴火後
避難指示	溶岩流	発生後の避難は困難なため、噴火前に影響範囲から避難する。	避難方針	噴火前
	噴石・小規模な噴石	発生後の避難は困難なため、噴火前に影響範囲から避難する。	避難方針	噴火後
避難対象エリア	エリア区分	説明	避難指示タイミング(溶岩流等)	噴火前
	第1次避難対象エリア	想定火口範囲	レベル3(一般住民・避難行動要支援者とも)	噴火後
第2次避難対象エリア	溶岩流等、大きな噴石、噴石型火山泥流(一部)	レベル4(一般住民・避難行動要支援者とも)	噴火後	
第3次避難対象エリア	溶岩流(3時間以内)到達範囲	レベル4(避難行動要支援者)	噴火後	
第4次避難対象エリア	溶岩流(3時間～24時間)到達範囲	レベル4(避難行動要支援者)	噴火後	
第5次避難対象エリア	溶岩流(24時間～7日間)到達範囲	レベル4(避難行動要支援者)	噴火後	
第6次避難対象エリア	溶岩流(7日間～最大で5.7日間)到達範囲	レベル4(避難行動要支援者)	噴火後	

出典：富士山火山防災対策協議会中間報告(令和4年3月)

非常用持ち出し品・非常用備蓄品

避難するときに持ち出す「非常用持ち出し品」(必要最小限のもの)と、災害から復旧するまでの数日間を支える「非常用備蓄品」に分けて用意しましょう。

- ◆飲料水・生活用水
 - 3日分の飲料水の備蓄(1人×3リットル×3日)
 - 生活用水
 - 水筒
- ◆食料品等
 - 3日分の食料の備蓄
 - レトルト食品
 - 缶詰
 - おやつ
 - 紙コップ
 - ラップ
 - 簡易食器
 - 箸
 - 缶切りナイフ
 - 粉ミルク
- ◆衣類等・衛生用品
 - 衣類
 - タオル
 - ティッシュ
 - マスク
 - ハンカチ
 - ウェットティッシュ
 - 除菌シート
 - 生理用品
 - 軍手
 - 紙おむつ
 - 簡易トイレ
 - トイレットペーパー
 - 歯磨き用品
 - ゴミ袋
- ◆燃料の備え
 - 卓上カセットコンロ
 - ボンベ
 - 簡易燃料
- ◆火山噴火時の準備
 - ヘルメット
 - ゴーグル
 - マスク
 - 長袖の上着
 - 長ズボン
 - 運動靴
 - 手袋
 - ヤック
- ◆その他
 - ライター
 - 懐電
 - ロウソク
 - 筆記具・マーカーペン
 - ガムテープ
 - 新聞紙
 - ロープ
 - 笛
- ◆医薬品等
 - 救急用品(清涼液、備前、ガーゼ、包帯、ばんそうこ)
 - 常備薬
 - カセット
 - はさみ
 - ピセット
 - 使い捨てカイロ
 - 体温計
- ◆情報
 - 携帯電話・充電器
 - ポータブルラジオ
 - モバイルバッテリー

富士山における火山活動の観測・監視体制

富士山では気象庁をはじめ、国や県の研究機関などが様々な観測装置を設置し、噴火予測のための観測を行っています。特に、2000～2001年の低周波地震の増加を受けて、各機関における火山監視体制が各段に強化されました。

富士山周辺の火山観測点

国、県及び市町村等は、大学等の研究機関と連携して、火山活動の異常を捉えるために、平常時から富士山の山体全体をカバーできるよう監視・観測体制の充実を図っている。

火山活動の監視等に利用されている主な観測施設

噴火の兆候を捉えて噴火警報等を的確に発表するため、富士山周辺の観測施設を利用し、火山活動を24時間体制で監視している。

観測している機関
 気象庁
 防災科学技術研究所
 東京大学地質研究所
 国土地理院
 山梨県・富士山科学研究所
 神奈川県温泉地学研究所
 国土交通省中部地方整備局

観測項目
 地震計(地殻変動や揺れをとらえる)
 傾斜計GNSS(地殻変動観測、地盤の動きをとり、マグマの移動をとらえる)
 ひずみ計
 全磁力計(地下の熱をとらえる)
 空振計(噴火に伴う揺れをとらえる)
 遠望カメラ(噴煙などをとらえる)

出典：富士山火山広域防災計画

情報の入手先

災害発生時の危険性が高まっている時、また災害発生時には、市や消防、警察、報道機関などから流れる正しい情報を入手しましょう。

情報の伝達方法、伝達経路

気象庁消防防 報道機関 テレビラジオ 緊急速報メール Jアラート

住民 避難情報

気象情報

裾野市 裾野市公式サイト 裾野市まもメール 緊急速報メール Jアラート テレビデータ放送 防災行政無線 裾野市公式ライン

●裾野市は避難情報をJアラートで届けています
 災害時の避難の呼びかけや避難所開設の情報は、テレビモニターのボタンにより、データ放送の避難情報で確認できます。

●緊急情報メール配信サービス「裾野市まもメール」
 登録方法
 ●QRコード読み取り機能搭載の携帯電話の場合
 左のQRコードを読み取り、画面の指示に従って登録作業を進めてください。
 ●QRコード読み取り機能無しの携帯電話またはパソコンの場合
 お手持の携帯電話または、パソコンから裾野市公式サイトより登録画面にお進みください。
 (裾野市公式ウェブサイトへアクセス) 登録作業完了後、登録メールが届きます。

上記の操作後、登録案内メールが携帯電話またはパソコンに届くため、画面の指示に従ってください。

家族に安否を知らせるために...

災害用伝言ダイヤル(171)

地震等の災害が発生し、被災地への通話がつながりにくい状況になった場合に提供が開始されます。
 詳細は[117]日本防災用伝言ダイヤル(171)を確認しましょう。

伝言の録音方法
 070-0 (055) 音声ガイダンスに従ってください。

伝言を入れる(30秒以内)

伝言の再生方法
 171-2 (055) 被災地の方は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

災害用伝言板(web171)
 インターネットを利用した安否確認の伝言板です。パソコンやスマートフォン、携帯電話等で利用できます。

利用方法 web171へアクセス https://www.web171.jp

被災地の人の電話番号を市外局番から入力

伝言を登録・確認

防災機関の連絡先

富士山からの水蒸気や火山灰の噴出、地震・噴動などの異常現象が見つかったら、すぐ下記に連絡してください。

電話番号

裾野市役所(代表) 055-992-1111

裾野市役所危機管理課 055-995-1817

裾野警察署 055-995-0110

富士山南東部本部 055-995-0119

裾野消防署

本ハザードマップに関する問い合わせ先

電話番号

裾野市役所危機管理課 055-995-1817

作成日：令和4年3月